



はげ文講座 2020 身近にながるワンダーランド!

都市の自然を考える

講師 高槻成紀さん (必ず事前にお申し込みください ※ オンライン配信あり)
玉川上水花マップネットワーク代表 定員各回 20名 / 参加無料

第1回

花マップの調査からわかる玉川上水

11/22 日

14:00-16:00

会場：小金井市公民館
貫井北分館 学習室AB



第2回

タヌキや身近な動植物と私たちの暮らし

12/12 土

14:00-16:00

会場：小金井市環境楽習館



企画・主催 はげの自然と文化をまもる会 申し込み メールで参加日、人数、代表者の氏名と連絡先をお知らせください
hakebun@gmail.com ☎ 090-1776-0874 (横須賀)

植 物 観 察

(9)

うだるような夏の暑さが、爽やかな秋の空気に変わりました。カラッと晴れた空には羊雲が浮かびます。玉川上水では今、色とりどりの植物の実を見ることができます。水色や紫色のノブドウ、朱色のカラスウリ、藍色のクサギ、赤色のノイバラ。それらの実の多くは鳥や虫の食糧となり、生態系を底から支えています。

昨年の冬、小金井橋から陣屋橋でサクラ以外の高木が皆伐されました。一抱えでは足りないほどの太い切り株が今も残っています。調査の結果、多くは70歳近い木であったことがわかりました。皆伐のあとに訪れた春は土がむき出しの状態でしたが、夏には強い日差しを受けて日射を好む草木に覆われました。最近では乾燥を好むヤクシソウがたくさん花を咲かせています。環境の変化が植生に表れているようです。この辺りでは毎年春先にアマナやフデリンドウが見られていました。来年再来年、その先も出会えるでしょうか。

< O.Y. >

玉川上水 こだま通信

2020年11月10日 No. 9

発行：小金井玉川上水の自然を守る会 代表：橋本承子
E-mail: kodama2107kodama@yahoo.co.jp
https://kodama201803.jimdo.com



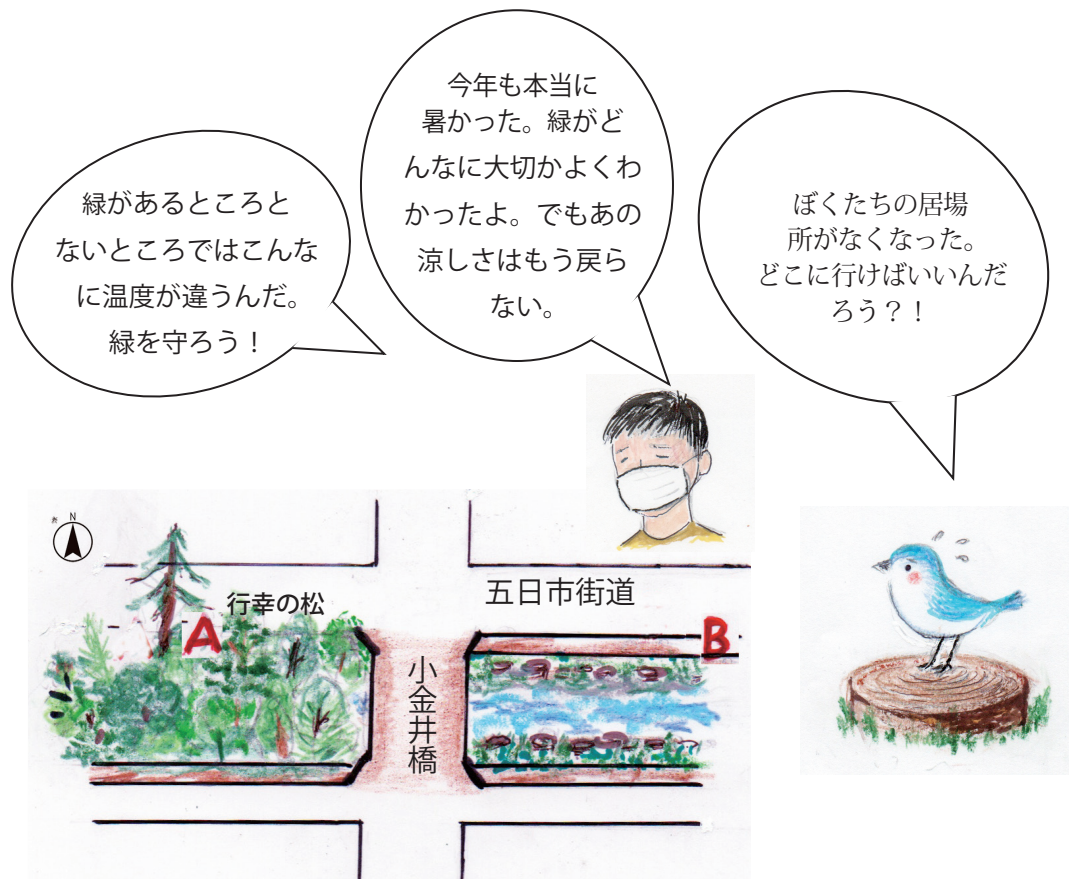
KN58 小金井橋から100m 下流 (東側) の北側

酷暑で枯れて
しまった小金
井桜の幼木



緑の残る A 地点の平均は 35.1℃ 皆伐された B 地点の平均は 52.4℃

8月11日の猛暑日 A 地点は 35.1℃。B 地点は 62.1℃でした。



今夏も玉川上水の地表温度を測定。8月の晴天の7日間16カ所(小平・行幸の松から梶野橋間)

2020年 温度差が大きい日	予定地区	皆伐地区	温度差(最大)
8月11日	A地点 行幸の松	B地点 介護施設かたくり前	
	35.1℃	62.1℃	27.0℃

昨年との平均比	2019年	2020年	温度差(最大)
B地点 介護かたくり前	31.5℃	53.4℃	21.9℃

小金井市長へ要望書提出

10月13日にこだま役員4名で西岡小金井市長に面会し、要望書「玉川上水に桜を植樹するための樹木伐採のやり方を見直してください」を提出しました。

こだまの他、「小金井玉川上水の自然を守る会」「環境NPOエコメッセ小金井」「小金井自然観察会」「玉川上水花マップネットワーク」「野川ほたる村」「はげの自然と文化を守る会」「NPO法人グリーンネックレス」の連名になっています。以下はその要約です。

東京都と小金井市は10年間、樹木を伐採し桜を植えてきました。こだまではこの間、桜と他の樹木との共存を求め、伐採方法の見直しを訴えてきましたが、名勝小金井桜最優先の下で、桜以外の樹木は全て伐採されています。しかし、2018年の台風24号では樹木密度の低くなった小金井地区では他地区より倒木率が7倍も高くなり、そのほとんどが桜でした。このまま伐採を進めることに危険を感じざるを得ません。また、東京都の「桜の樹木調査」の結果から、上水南側の桜が北側より状態が悪いことが判ります。急激な温暖化による高温・乾燥が影響していないか検証し原因を明らかにすべきです。

並木だった当時とは交通事情も含め環境が大きく様変わりしています。文化財ではあっても当時と全く同じ景観を求めることに無理がないか再考が必要です。これらの観点から今の伐採方法がこのまま他の地域に広がらないよう、防災、地球温暖化、生物多様性、地質などの専門家も交えて今後の伐採のやり方をもう一度見直してもらえるよう要望しました。

要望書全文は、こだまのブログ <https://kodama201803.jimdofree.com/>、Facebook <https://www.facebook.com/kodama2018> で公開しています。

たくさんの団体が連携して現状の玉川上水の問題点(主に自然について)を取り上げ、整理して共通の要望を出し、共に改善するという流れを作りつつあります。

小平の場合 小平の玉川上水花マップネットワーク(代表:高槻成紀)他7団体が2020年8月4日付けで東京都知事と小平市長、教育長宛に要望書を提出。「私たちはコガネイ桜の並木の形成のための他の樹木の伐採は望まない。伝統文化としての桜の花見は尊重されるべきものですが、繰り返して伐採すれば直射日光により陽性の草木ばかりはびこり、元々林の下に生えるニリンソウやカタクリのような野草は生えることができなくなり、昆虫や動物も暮らせなくなる。このような生物多様性の観点から、小平市においては桜を植えるために、残された豊かな森林を伐採しないでいただきたいと強く望む」(要約)。